

二三 廣瀬中佐

一、神州男兒、數あれど、男兒の中の眞男兒。

世界に示す鑑とは、廣瀬中佐がことならむ。

二、己に一たび死を期して、旅順封鎖に向ひしも、

事意にみたぬ無念さに、再び結ぶ決死隊。

三、元より君に捧げし身、妻も迎へず、子も持たず。

父の寫眞と兄の文、これぞ膚の守なる。

四、かゝる強將上にあり、下に弱卒などあらむ。

兵曹杉野就中、中佐が無二の股肱たり。

五、上下心を一にして、入るや虎穴の奥深く、

その大任は船底に、  
積める石より尙重し。

六探海燈は稻妻

か、

水雷は實に

雷か、

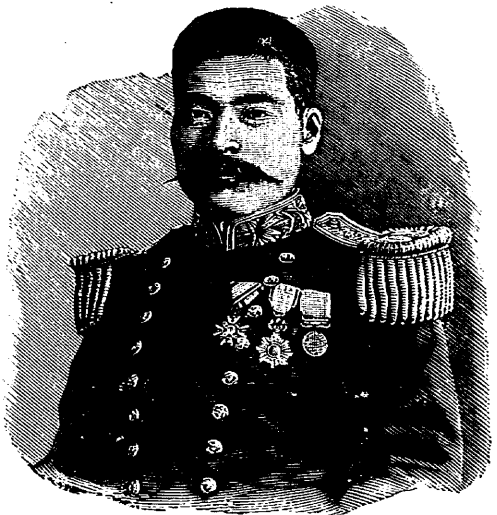
中をひるまず

悠々と、

行くや名に

おふ鬼中佐。

七、かくて任務を果し、に、  
わが兵曹はいかにせし。



廣 瀬 武 夫

姿も見えず、影もなし、あはれ、杉野はうたれしか。

八、杉野はいづく兵曹と、呼べと答は荒海に、

訝と聞くは砲彈の、船に碎くる響のみ。

九、三たび求めて、三たび得ず、かくては君も危しと、

促されつゝ本意なくも、小舟に移り乗らむとす。

十、時しもあれや轟然と、耳をつんざく敵彈は、

血煙船に立ちこめて、中佐の姿はやもなし。

十一、五尺の軀の名残なる、只一寸の肉塊は、

忠血・義血・俠血の、千古に朽ちぬ寶ぞや。

十二、あな、いさましの軍神。七たび人と生まれ来て、

わが帝國や守るらむ。

あな、いさましの軍神。

（巖谷小波、山櫻集）